

## 新刊の森

## 『地域発「価値創造」企業』



平野 真著  
丸善  
1800円(税抜き)  
ISBN978-4-903737-03-4

## 知識社会で求められる経営とは

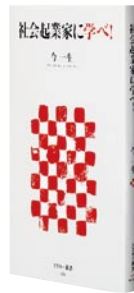
高知工科大学大学院起業家コース・コース長、同大学マネジメント学部教授である著者が、ユニークな「価値創造」を実現する地域企業を紹介しながら、知識社会で求められる企業の経営戦略を示す。

日本料理の飾りとして、山にある木の葉を商品化し高級料亭に販売している「いろどり」、ファクス紙の開発で培った紙の特殊加工技術を活用し、あぶら取り紙、紙おしろいなどを独自開発する「ヘイワ原紙」、人口300人ほどの島で、郵便、宅配、小売りなどの事業を幅広く展開する沖縄県の「竹富島交通」など、地方で活躍する企業を紹介する。

これらの例から、経営資源の乏しい地方でも工夫次第で様々な事業展開が可能なこと、先端技術を持たなくても魅力的なビジネスモデルがあれば成功できること、地域独特の緊密な人間関係やコミュニケーションがビジネスのプラットフォームとして有効に機能することを明らかにする。

後半では、この20年ほどの知識経営学の流れを概観し、今日の企業の組織運営の問題点を考察する。そのうえで、地域企業を知識経営という視点で整理し、「知」やミッションの共有、リーダーシップのあり方、ネットワーク形成などで留意すべき点を示す。

## 『社会起業家に学べ!』



今 一生著  
アスキー新書  
781円(税抜き)  
ISBN978-4-04-867187-3

## 社会起業家の活動と成果を紹介

環境保護、地域再生、途上国支援などの社会問題を解決するために、独自のビジネスモデルで事業を起こす社会起業家。本書は、日本の若い社会起業家20人余りの活動を紹介します。

山根多恵さん(27歳)は2006年1月、24歳で島根県大田市の老舗旅館・吉田屋の女将に就任した。売り上げ目標を早々に達成すると、金・土・日しか営業しない週休4日制を導入。4日間を地域のための活動に充てている。「規格外」と判断された農作物を再利用する「もったいない運送」、休耕地で農作業に励む「NOLO耕作隊」の結成など、活動の幅は広い。「島根は過疎や高齢化、伝統ある仕事の後継者不足など日本が抱えるあらゆる課題の先進地。ここで問題を解決した成功例は全国、世界のモデルになる」と意気込む。

乳牛の飼育、乳製品の生産・加工・販売を一貫して手がけるシックス・プロデュース社長の洲濱正明さん(24歳)は、完全自然放牧で、牛を牛らしく育てることにこだわる。狭い牛舎に牛を押し込め、1年中同じ飼料を食べさせる現代の酪農に疑問を持ち、動物福祉、自然環境保護などの課題を解決する事業のあり方を探ろうと試みる。

社会変革に真剣に取り組む起業家たちを知ることで、自分の「命の使い道」を考えてほしいと訴える。

## 『自分のキャリアを磨く方法』



山本 寛著  
創成社新書  
800円(税抜き)  
ISBN978-4-7944-5022-7

## 働く人の「キャリア」を考察

働く人々にとって、「キャリア」とは何か、「キャリアが発達する」「キャリアを磨く」とはどういうことかを考察する。

著者は、働く人のキャリアを「個人の生涯を通して、継続的に獲得していく職業や労働に関係した経験」と定義づけ、継続性、連鎖性、発達性を持つ点に特徴があると解説する。キャリアの発達には、客観的なものと主観的なものがある。昇進・昇級・高度な資格の取得など客観的キャリアの発達と、そこから得られる満足感など主観的キャリアの発達とのバランスを取ることが重要と説明する。

キャリアを発達させるには、夢や目標を持ち、実際に行動することが求められる。転職に限らず、上司に働きかけたり、社内人材公募制度に応募したりすることなどが必要になる。現実には、事前の計画通りに進むことは少なく、偶然に左右されることが多い。自分にとって望ましい偶然を呼び込みやすくするには、様々な活動に積極的に参加すること、失敗や間違いを恐れずに行動すること、他人に対してオープンな態度を取り、かかわりを持つことを心がけるべきだと指摘する。

女性や非正規社員のキャリア発達の特徴や、ワークライフバランスとキャリアの関係についてもまとめている。